

編集委員会便り

人間が築き上げるものに絶対的なものは何ひとつない。産業革命から急速に発展し続けている工業社会は、科学技術の飽くなき探求を目指している。その発展には、環境汚染と事故がつき物であったが、人々はそれらのリスクを乗り越えてきた。21世紀を目の前にして、世界規模で工業化が展開されているだけでなく、情報、金融、バイオなど科学技術の新たな世界が切り開かれつつある。しかし、一方で、サイバーリスク、金融リスク、バイオリスク、あるいは都市や大型技術のリスクなどの増大が懸念されている。人々の利便性と快適性の追求、そして自然を支配していこうとする欲望には衰えることがない。

科学技術の成長は、人類のパラダイムを拓くのか、それとも逆に破局に陥ってしまうのか、それはまだだれもわからない。わかっているのは、開発には必ずリ

スクが伴う。そして新たに発生するリスクをできる限り低減し、安心して暮らせる社会を築き上げなければならないことである。それには、リスクとその大きさを客観的に知り、そしてそれを回避していく術を身につけなければならない。

今回の特集では、電気を社会に供給する上で考えられる様々なリスクとその大きさを、火力、原子力、再生可能エネルギーの発電システムの外部性と外部費用について専門家の方々にそれぞれの立場から執筆して戴いた。執筆内容は、主に欧州で実施されたExtern Eプロジェクトについてであるが、これを機会にわが国でも外部性研究が広まっていくことを期待する。

内山洋司
(筑波大学機能工学系教授)